

第6回 蒲郡北地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和3年12月26日（日）

午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

ZoomID：938 5401 5586

パスコード：225956

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的、進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
地区利用型施設再配置プラン案について ・評価の修正 ・付帯事項	1：50
グループ討議1 ・将来の蒲郡北地区の公共施設の配置としてふさわしい案（絞り込み）	2：10
（休 憩）	3：10
発表1	3：20
グループ討議2 ・各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと（付帯事項）	3：40
発表2	4：10
あいさつ	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第5回ワークショップの結果概要（案） 7
- ・ 第5回ワークショップふりかえりシートご意見 16
- ・ ご質問等への回答 19
- ・ 蒲郡北地区 地区利用型施設再配置プラン案 25
- ・ 評価に関する修正意見についての対応及び考え方 28
- ・ 再配置プラン案の評価検証【修正版】 35
- ・ 付帯事項について 38
- ・ 本日の検討内容 40
- ・ （別冊）項目ごとの評価の解説【修正版】

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に蒲郡北地区（中部中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

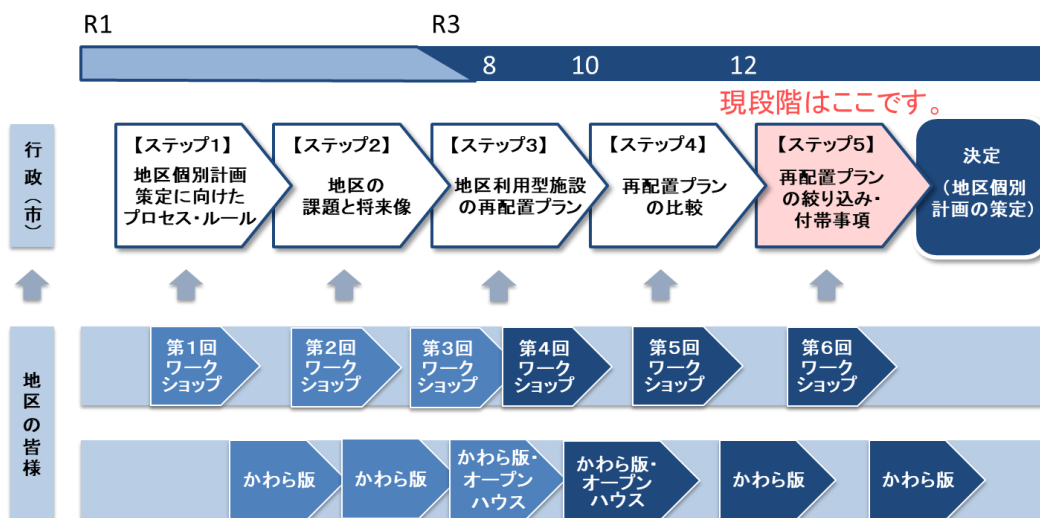
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ワークショップ
- オープンハウス（パネル展示型説明会）
- かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も地区内の商業施設や保育園で開催しました。

【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和3年12月までに3回開催します。
- 原則、日曜日に開催します。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。ご自宅等からの参加が難しい場合は、中部中学校にて参加できます。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 中部中学校に設置された中継会場から一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場合があることをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

第5回ワークショップの結果概要（案）

1 評価表について

1) 評価方法全般

- 学区の捉え方など、年代、地区によって評価が異なる部分があると思う。
- 客観評価は市からの原案があっただけでしかるべきだが、項目によっては地域で評価の原案を募る方がよかったのではないかな。
- 「現状より向上」という評価は各案の違いが見えにくい。例えば〈ア〉については、全ての案において複合する部分があるので、評価結果はすべて◎になってしまう。
- 案ごとに丁寧にその価値を評価していくべきだ。ハード面での評価には納得しても、運営面についての議論が必要だ。

2) 視点ごとの評価項目

①地域での活動・交流のしやすさ

- 近隣住民の人間関係、交流が重要であり、その点でB、C、E案が良いと評価している。
- 〈ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか〉
- 機能毎、地域毎に交流のしやすさが変わると思うので、全ての案で複合するといって、全てに◎がつくことに違和感がある。
- 〈オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか〉
- 「伝統的な地域のつながり」は小学校区に紐づくので、D案以外△になるのは納得できる。
- 〈ア、オ〉
- 中学校が西部地区に配置されることで交流場所として機能するため、F案はB案よりも付加価値が高い。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

②学校教育環境のあり方

<カ 適切な学校規模が維持されているか（小学校）>

- 「適正（適切）」を児童数だけで評価して良いだろうか。児童の性格などにより、何が適正かの判断は難しい。

<ク 通学の利便性は確保されるか（小学校）>

- 交通安全の観点から、距離だけでなく歩道や信号機の有無、道幅の狭さなどの道路状況も考慮する必要があるのではないか。

<カ～ケ>

- 通学の利便性や学校規模については、教育委員会の規準で進めればよい。

<サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか>

- 地域での活動のしやすさと、子どもたちの利用のしやすさは違う。

③子育てしやすい環境づくり

<ス 子育て関連施設は近接して配置されているか>

- E案の△については納得である。

④高齢者の居場所づくり

- 地域には今回の対象施設に限らず、「居場所」がある。対象施設に限って、「高齢者の居場所」を判断することに違和感がある。

<チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか>

- 高齢者が歩いて通える距離に公民館があることは重要であるため、その視点からE案の△は当然である。
- 単純な距離だけでなく愛着もあるので、評価方法として疑問に感じる。
- 友人や仲間がいるからと中央小学区の方が小江公民館を利用することもあり、距離だけで利便性は測れないと思う。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- A、B案は西部小学区からみると、公民館等へのアクセスが悪くなるため、◎でよいか疑問である。

<テ 中高年・高齢者の日常的に交流できる居場所は確保されているか>

- 評価がどの案も同じ○になっていて差がない。それでよいのか。

⑤安全・安心

<ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか>

- C案などの評価は○となっているが、中央小が他校に統廃合される場合に、中央小学区の避難所が確保されているかが不安だ。

<ニ 津波や河川の氾濫が考慮された施設配置となっているか>

- A、B案は西部小学区からみると、災害時の避難面でよくないので、△は妥当だと思う。

<ヌ 子ども達の通学の安全が確保されているか（交通安全）>

- A案では「国道247号線を通らないことで安全」とされているが、247号線は歩道が整備され、信号もあるので安全ではないか。整備されていない路地の方が心配であり、北部小に向かう歩道が狭いため、一長一短の○だと思う。
- A案は西部小が分割され通学距離が長くなるので、交通危険性が増すが、評価が◎なのは疑問がある。
- C案では、中央小が分割され国道247号線を横断する通学はなくなるが、中央小から蒲南小に通う場合にも交通量の多い道路の横断がある。
- B、G案は「北部小、西部小が中部中に移転することで両校の周辺道路からの危険性が低下するので◎」となっているが、通学路が長くなる児童もおり、歩道が整備されていない箇所もあることから評価は正しくないのではないか。
- 「信号機の有無、歩道の有無、道幅の広さ」などで安全性を評価する方がよい。

⑦将来負担の縮減

- 将来の子どもたちへの財政負担の軽減を目的とした施設統合は仕方ないと思う。
- 修繕等の計画をたてることで財政圧迫は回避できるのではないだろうか。長寿命化の方針を最優先に考える必要があるだろう。

2 再配置プランについて

- 地区単位で何らかの交流機能があると良い。
- 保育園と小学校が近くにあることで、小学校入学のハードルが下がる。2つの施設は近くにある方がよい。
- 児童クラブと保育園は送り迎えの都合から一緒か近くにある方がよい。
- 平成の大合併を見ても、合併した自治体（地区）は地域コミュニティが弱体化したりしている。再配置はコスト面だけでなく地域コミュニティの維持という点を重要視したい。
- 公民館の区域が変更されるとなると、学区か総代区どちらで線引きするかなどの議論も必要になる。
- 各案一長一短なので、7つの案からいいとこどりして一つの案にまとめるとうい。
- 公共施設の再編が行われるのは20年後と聞いた記憶があるが、実際にはいつか。

<複合化>

- 例えば北部小敷地に小学校と保育園と公民館を複合化することは現実的に可能なのだろうか。運動場の広さなど疑問が残る。
- 複合化することで運動場が狭くなるなど利用者（児童など）に不便が生じないようにしてもらいたい。

<学校の統廃合>

- 適切な教育環境や子どもたちの交流は大切だ。児童が多すぎる、または少なすぎるのは適切ではないと思うので、その場合は統廃合していくのが良い。
- 小学校を統廃合する場合には、人数の少ない小学校を分割する方が全体からみると影響が少なくて妥当だと思う。
- B、E、F案のように、北部小と西部小がどちらかに合併されるのではなく、どちらでもない中学校敷地で合併するのは、当事者が納得しやすいと思う。
- 学校規模が小さくても大きくても、教育は平等であるべきというのが前提で、与えられた環境の中で最良の教育を受けられるべきであり、小規模だからといって他と統合されるなど、特定の地域が犠牲にならないようにしてほしい。

<小規模校について>

- 小規模校の良さを実際に感じている。手厚く子供を見てもらえると聞いたことが引っ越しの後押しにもなった。
- 小規模も良さはあるが、学年で男子が1人という場合もあるし、行事が盛り上がりがないなどもあるだろう。小規模すぎるのは避けたほうが良い。現在西部小に通われている児童の保護者からも統合を望む声を聴いている。
- 小規模校では、先生の目が行き届きやすく、教員全員で児童を見ている、1人あたりの教育濃度が濃く、マンツーマン指導ができるというメリットがある。一方で人間関係の多様性を育むには人数が少なかったり、気の合う友達だけではなく、6年間違和感を抱えながら過ごすといったデメリットもある。

<小中一貫教育について>

- 小中一貫教育を導入するならば、別に私立の一貫校を設立してだれもが選択できるようにする方がよい。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 一貫校にした場合、小学校から中学校に進学する時に人間関係づくりがうまくできるかが心配である。

<A案>

- 国道 247 号線で区切ると、宮成地区を分断させてしまう。自治会の状況を踏まえて検討した方が良い。
- バランスがとれており、よいと思う。

<B案>

- 西部地区からみると、地域に根差す公共施設が何もなくなってしまう。
- 公民館は高齢者の利用も多く、アクセスが悪くなると利用しづらくなるのではないか。西部と北部の公民館は集約されない方がよい。

<C案>

- 各地区の利便性を考えると一番よさそうな気がする。
- 中央小を分割する上に、学区西端から蒲南小へ通うのは距離があって不便だ。
- 中央小は、蒲南小から分離した歴史的な経緯があり、これを西部小と蒲南小に分割することは妥当だと思う。西部地区、北部地区はコミュニティを変えるほうが抵抗がある。※
- 中央小も設置されて 40 年近く経っており、すでにコミュニティが存在している。小学校を分割する際には、コミュニティが壊れない配慮が必要ではないだろうか。※
- 西部地区、北部地区は小学校、保育園、公民館が隣接しているのに対し、中央小学区は各施設がバラバラに配置されており、中央小を分割する方が妥当である。※
- 中央小が仮に分割されたとしても、中央小学区には代替となる施設が他にもあるため、西部地区や北部地区ほど影響が少ないのではないか。※
- 中央小が分かれることについては、元に戻るのに違和感がない。※
- 中央小が分かれることについては、今の世代からすると心配。※

<D 案>

- 保育園が複合される案は、子育てする立場としては嬉しい。
- 児童クラブを利用するようになると保育園、小学校が一体となっていると嬉しい。

<E 案>

- 中央小は、蒲南小から分離した歴史的な経緯があり、これを西部小と蒲南小に分割することは妥当だと思う。西部地区、北部地区はコミュニティを変えるほうが抵抗がある。※
- 中央小も設置されて 40 年近く経っており、すでにコミュニティが存在している。小学校を分割する際には、コミュニティが壊れない配慮が必要ではないだろうか。※
- 西部地区、北部地区は小学校、保育園、公民館が隣接しているのに対し、中央小学区は各施設がバラバラに配置されており、中央小を分割する方が妥当である。※
- 中央小が仮に分割されたとしても、中央小学区には代替となる施設が他にもあるため、西部地区や北部地区ほど影響が少ないのではないかと。※
- 中央小が分かれることについては、元に戻るのでは違和感がない。※
- 中央小が分かれることについては、今の世代からすると心配。※
- 小中一貫教育ができる先生もいると聞いている。教育の質の面も含めて、小中一貫校がよいという意見があった。※
- 小学校 6 年間と中学校 3 年間は分けておくべきで、そうすることで小学校 6 年生が最上級生という自覚が生まれる。現役の先生方も一貫校には反対する意見が多いとも聞く。一貫校ではなく複合化（それぞれは独立）しているほうが良いと思う。※

<F 案>

- 「新しい小学校」という言葉が気になる。単なる合併とは違うのか。
- 西部公民館と北部公民館を統合し、中央小に蒲郡公民館の一部を持ってく

るなどとすると、地域コミュニティが変わってしまう。※

<G案>

- 途中合流の学校があるので、小中一貫校が具体的にイメージできない。中学校から合流する中央小の児童が疎外感を受けないだろうか。
- 合流したときに疎外感を受けるなどの意見もあるが、それもまた教育と考えると、過剰に心配しなくてもよいのかもしれない。
- 複合化・一体化するのは財政的にもコストがかかるのではないだろうか。
- 小中一貫教育ができる先生もいると聞いている。教育の質の面も含めて、小中一貫校がよいという意見があった。※
- 小学校 6 年間で中学校 3 年間は分けておくべきで、そうすることで小学校 6 年生が最上級生という自覚が生まれる。現役の先生方も一貫校には反対する意見が多いとも聞く。一貫校ではなく複合化（それぞれは独立）しているほうが良いと思う。※
- 西部公民館と北部公民館を統合し、中央小に蒲郡公民館の一部を持ってくるなどとすると、地域コミュニティが変わってしまう。※

※ 複数の案に共通する観点からいただいたご意見については各案に重複して掲載しています。

3 その他

- 学校配置だけではなく、児童に合わせて学校選択ができるとういのではないか。
- いずれの再配置案を見ても、歩けない距離ではない。児童の健康や運動の観点からもスクールバスは必要ではない。
- スクールバスの導入は通学距離だけではなく、防犯の点からも検討してもらいたい。通学の安全は交通安全と防犯の両面から考えたい。
- 海が目の前にあるのに泳げない蒲郡ではいけない。市民プールの整備を検討すべきである。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 蒲郡市内を通過するのに、時間がかかるという声を聞く。道路の整備を進めることで安全性の確保などにもつながるのではないか。
- 西部小学区（山本地区）で信号を設置したくてもできない箇所があったと聞く。児童の通学にも利用されているようだが、こうした整備を進めるのが良いのではないだろうか。
- コミュニティバスの充実などで利便性を確保することを検討するほうがよいかもしれない。
- 案が多すぎて資料がわかりにくい。短時間で理解でき、議論可能なものとしてほしい。

第5回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 私自身資料など読み慣れておらず、今回の資料も判断しながら理解していくのがおいつがずだったのですが、グループの方から資料の見づらさなどの指摘があったので少しホッとしてしまいました。もう少し見やすいと有難いです。

ファシリテーターの名畑さんが上手く進行して下さり良かったです。

- 今回、オープンハウスの結果概要や、項目ごとの評価の解説などを作成していただき、有難うございました。大変な作業だったと思います。わかりやすく良かったと思いました。

評価の解説についてどうしてこのような評価になったのか詳しく書かれておりましたので、当日質問もあまり出ませんでした。前回のワークショップの意見のまとめについても、参加者の考え、特に違う班の方の意見がわかりました。

オープンハウスのアンケートもグラフなどにまとめられており、わかりやすかったです。もう少し多くの人意見が聞くことができれば良かったと思いました。例えば、児童館利用者、公民館利用者、老人クラブの方などにもアンケート聞くのもよかったのでは。それから各地域での意見も聞いたほうがよかったのではないのでしょうか？

コロナ禍の中、なかなかオープンハウスのアンケートも難しかったとは思いますが、P49 ページを中心にグループ討議しましたが、A 案から G 案という多くの案があり、案が多すぎて、今回は終盤でもありますのでもう少し絞って評価をするほうがよかったようにも思いました。

今回もファシリテーターの名畑さんが上手に進行し、平等に意見を聞いてくださいました。まとめ方もさすがでした。地域を思うがため熱心に強い口調で意見される方もいらっしゃいましたが、上手に対応くださいまし

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

た。自分と違う年齢や立場の方の意見を聞くことは大変このワークショップの意義があると思いました。

学校教育環境のあり方についてですがどうしても北地区は町にある学校とは環境が違い、学校までの距離が遠かったり、信号や歩道が整備されてなかったり、民家が少なく人通りもなく危険も多く感じられます。どの案になっても、安全で、安心して通学できるようにしていただきたいです。

サの子供たちが市民団体の活動に参加できるようになっていることは良いことです。家庭に居場所のない子供が、障害の子供も利用できるような環境にしてほしい。子ども食堂などもあるような児童館や公民館もいいのでは。学校の数減らして、その分を生活困窮の子供や障害の子供にも学びの環境を整えてあげたい。

評価に点数をつけていただきましたので、参考になり私にはわかりやすかったです。

保育園については、市外で働く人には中部保育園は駅から近いので働きに行くときに預けやすいと聞いたことがあります。そのため中央小にまとめより今の場所もよいのではないかと思います。

今回は最後に余裕があり終わることが出来て良かったです。いつも最後が慌ただしいので。各グループの意見がいつもよりゆっくり聞けました。

今回は参加者がとても少なく感じられました。寂しく感じました。

次回は皆さんが参加してくださると良いです。

- 各項目に対する事務局の評価への賛否両論を住民の目線で確認できたこと。現在住んでいる場所から想像できる将来の姿に色々な視点で意見を出しあえたこと。
- 中央小学区の人たちの気持ちが何となく分かりました。

2 内容について言い足りなかったこと

- 中部中に西部学区北部学区が集まった場合や北部小に西部小などを移転した場合に駐車場の確保があるといいなと思いました。現況でたまに北部小の横を通る時に車が道路にはみ出て停車していたりしているので、歩行者や車の往来が危ないなと思っていました。なので、新しく施設などが出来る場合駐車場の確保がしっかりしているといいなと思いました。
- 終盤ですので案も視点も絞っていくのはどうでしょうか。専門の分野の意見をはじめに伺いましたが、私たちの意見を専門的立場からはどんなふうに思うか聞いてみたい。教育現場、保育の現場、児童館など実際に携わる先生の意見も市役所の方の意見も聞いてみたい。
もう次回が最後ですので、少しでも将来に負担が残らぬように、そしてよい町づくりの話し合いができると良いと思います。マネジメント課の皆様が私たちの意見をまとめたり、質問に対し調べたり、わかりやすく回答して下さい、感謝申し上げます。ありがとうございます。
- ファシリテーターの方からは少し説明を頂きましたが、他地域の進捗や議論の方向性を理解できるとより良いと思いました。
- 竹島小の中に移転オープンした府相公民館を見学できないでしょうか
宮成町の公民館はどうなっているのですか？
行政区の見直しもやはり必要だと思います。私が小学校でPTAの役をやっていた時は西部小と中央小と両方の運動会のことをやらなくてはならず大変だと言っていました。(20年位前のことです)
- それぞれの意見があるので慌てて決めないほうがよい。色々の意見を聞いたうえでそれぞれの良いところを取る方がよいのでは。
- 各自いろんな意見があるのは当たり前のこと。それを一律に一色にまとめるのは無理なこと。

ご質問等への回答

- 他地域の進捗や議論の方向性を理解できるとより良いと思いました。(ふりかえりシートより)

平成29年度にワークショップを開催した塩津地区・西浦地区では、地区内の施設再配置について定めた「地区個別計画」、複合化する施設について敷地内の建物配置等を定めた「基本計画書」を策定しました。以下に両地区の計画概要を掲載しましたので、検討の参考にしてください。

なお、平成30年度にワークショップを開催した蒲郡南地区(蒲郡中学校区)・三谷地区については蒲郡北地区と関連性の深い部分があり、3地区の結果を踏まえて計画を策定する予定です。

参考資料として各地区のかわら版第5号を同封しましたのでご確認ください。

塩津地区

○地区個別計画

「集まりやすい位置に『子育て』と『交流』の拠点を作る」



- ・ 小学校、保育園、公民館を現在の小学校、公民館の敷地に集合させ、「子育て」と「交流」の拠点を形成。
- ・ 保育園は統合し、低年齢児保育と延長保育が実施可能な規模の施設を整備。
- ・ 児童クラブは、小学校と同じ敷地に設置。
- ・ 中学校は、現地で適正規模に改築。
- ・ 児童館は、長期にわたって利用できるよう適切に維持。

○基本計画書

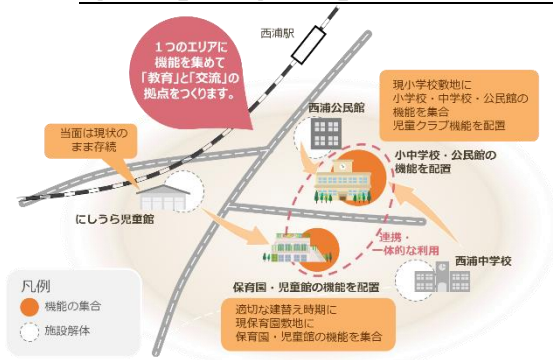
- ・ 小学校低学年と保育園児の「共同の遊び場」を設置し、子ども達の日常的な交流を図る。
- ・ 保育園、小学校、児童クラブを同一敷地に整備することで、送迎の負担軽減や移動時の安全性向上を図る。
- ・ 各施設から利用しやすい場所に地域のイベント等を実施できる屋外広場を設置。
- ・ 公民館と小学校体育館を合築し、地域活動で体育館を利用しやすくすることで、交流の活性化を図る。 など



西浦地区

○地区個別計画

「機能を集めてつながりを持たせ
『教育』と『交流』の拠点を作る」



- 小学校と保育園の敷地を活用し、互いにつながりを持たせることで「教育」と「交流」の拠点を形成。
- 小学校、中学校、公民館を小学校敷地に集合。
- 児童クラブは、小学校と同じ敷地に設置。
- 保育園及び児童館は、施設が比較的新しく活用できるため、当面は現地で維持。適切な建替え時期に保育園敷地に集合。

○基本計画書

- 小中学校を集合させることで、小中学校の枠を超えた異なる学年間につながりで多様性を育む新たな教育体系を構築する。
- 屋外広場等の共有空間を利用者が集まる空間とすることで、世代間交流の拠点とする。
- 図書館や体育館など相互利用可能とすることで、地域活動の活性化を図る。

など



● 公共施設の再編が行われるのは20年後と聞いた記憶があるが、実際にはいつか。

市はワークショップ等でいただくご意見を参考にして、地区利用型施設の将来の配置や使い方を示す地区個別計画を策定し、その後敷地内の建物配置や運営方法等の検討を行うこととなります。実際の整備時期については老朽化状況や他地区の計画、市の財政状況等を踏まえて総合的に判断することとなるため、現時点で決まったものはありません。

今後、さらに進む少子高齢化等の社会状況の変化に対応できる施設づくりを進めていくため、ワークショップでは概ね20～30年後の姿を想像しながらご意見をいただきたいと思います。

- 例えば北部小敷地に小学校と保育園と公民館を複合化することは現実的に可能なのだろうか。運動場の広さなど疑問が残る。

先に検討が進む塩津・西浦地区の事例を参考に以下の観点で検証を行っており、すべてのプランについて施設配置が可能であると判断しました。ただし、運動場については現在と同程度のトラックが確保できるかで検証を行っており、一部のプランでは運動場全体の広さは現在よりも狭くなる想定です。

学 校：現状と同程度の児童生徒数に対応した規模（最高4階建て）

保育園：グランドデザインにおける2040年予想入所者数が入所可能な規模（最高2階建て）

公民館：学校と複合している府相公民館と同等の規模（最高2階建て）

なお、実際の施設整備時には、必要機能や面積等について実際の利用状況や今後の児童生徒数の見通し等を踏まえて再度検討を行う必要があります。

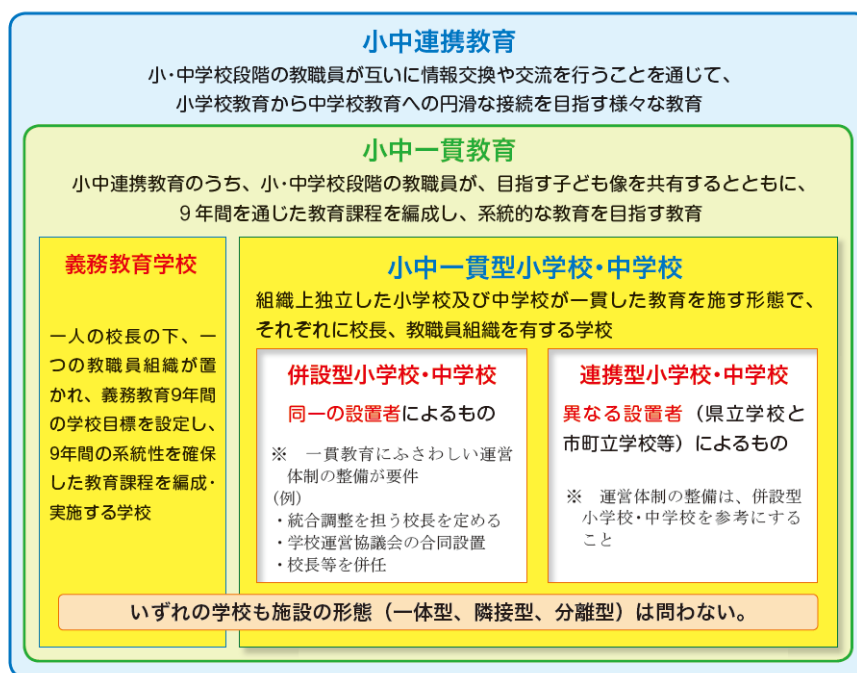
- 「新しい小学校」という言葉が気になる。単なる合併とは違うのか。

どちらか片方の学校に統合するのではなく、中部中学校の敷地で西部小学校と北部小学校が集合することで、両校の歴史を引き継ぐ小学校を新設するという意味合いで「新しい小学校」という言葉を使用しています。ご意見いただいたように2小学校の合併をイメージしていただくと分かりやすいかと思います。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 途中合流の学校があるので、小中一貫校が具体的にイメージできない。中学校から合流する中央小の児童が疎外感を受けないだろうか。
- 一貫校にした場合、小学校から中学校に進学する時に人間関係づくりがうまくできるかが心配である。

現在、小中学校は同じ区内であっても、各校で教育目標を定め、それぞれの校種の年限（小学校6年間、中学校3年間）の中でどのように子ども達を育てていくかを検討し、教育活動をおこなっています。一方、小中一貫教育とは小中学校の教職員が目指す子ども像を共有し、9年間の繋がりを確保した教育課程を編成する教育制度のことで主に以下の体系に整理することができます。



「栃木県小中一貫教育ガイドライン」より抜粋

上の図表のなかに「施設の形態は問わない」とあるように、敷地が離れた小中学校においてもカリキュラムの工夫や交流機会の設定により、9年間を通じた教育課程を編成する「小中一貫教育」を行うことは可能であると考えています。

また、G案のもととなっている小中学校規模適正化方針Bプランでは、現中部中学校敷地において「小中一貫教育を導入」もしくは「小学校・中学校を隣接配置する」ことで、小中学校の連携協力体制を構築することとしています。

小中一貫教育（図のうち緑色枠）の導入もしくは施設の隣接配置による小中連

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

携教育（図のうち青色枠）のどちらを実施するのか、現段階で決まったものはありません。施設の再配置とは別に、教育委員会において今後の教育のあり方について検討を行っているところです。

また、今後どのような教育体系が選択されたとしても、子ども達が不利益を被ることのないような体制を構築していく必要があります。

仮に小中一貫教育が導入されると、同じ教育課程のもとで地区内の複数の小学校が交流しながら活動する機会も増えてくると考えられます。現在、児童生徒にタブレット端末が配布されており、オンラインを活用した授業も行われています。対面やオンラインで学校間の交流の機会を設けることにより、異なる学校の児童であっても中学進学時には、お互いを認め合え、スムーズな人間関係を築くことができるのではないかと考えています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 西部小学区(山本地区)で信号を設置したくてもできない箇所があったと聞く。児童の通学にも利用されているようだが、こうした整備を進めるのが良いのではないだろうか。

信号機の設置や管理は警察が行っており、設置には「歩行者が安全に信号待ちできるスペースが確保できること」「自動車がすれ違いできるだけの道幅が確保できること」などの要件があります。ご意見いただいた山本地区の交差点については、周辺の道幅が狭く前述のようなスペースを確保できないために設置が難しいと警察で判断されています。現在は、子ども達の登下校時に交通指導員(緑のおばさん)や学校の教員が見守ることで安全の確保に努めています。

また、蒲郡市では通学路の安全を確保するため、「通学路安全対策連絡協議会」を設置し、教育委員会・学校・警察・道路管理者等で協議を行っています。協議会では毎年、通学路の危険箇所の抽出や抽出された危険箇所の点検、対応策の検討を実施しており、必要に応じて、各機関において歩道整備や防護柵の設置などのハード整備、交通規制の実施や交通安全教育などのソフト対策を行っています。

- 竹島小の中に移転オープンした府相公民館を見学できないでしょうか。(ふりかえりシートより)

12月23日に府相公民館の施設見学会を開催します。詳しくは先日お送りした案内文をご確認ください。公民館はお住まいの地区に関わらず、誰でも利用可能な施設です。今回ご都合のつかなかった方もご興味がありましたら、事務室にお声かけのうえ、ご自由にご見学ください。なお、開館時間内でも職員不在の場合がありますので、ご来館の際は電話等でお問い合わせいただくことをお勧めします。

- 宮成町の公民館はどうなっているのですか。(ふりかえりシートより)

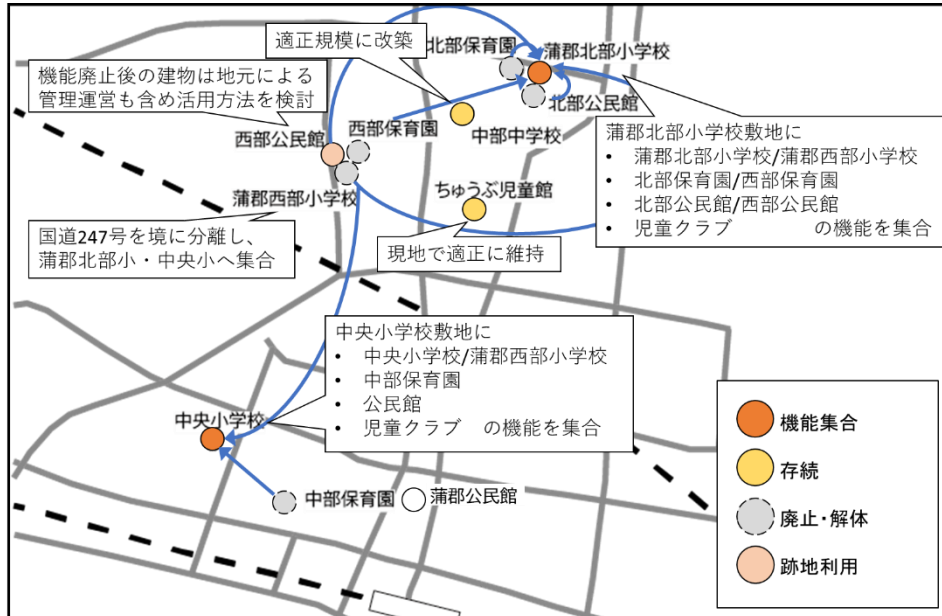
ご質問いただいた宮成公民館は地元自治会である宮成区が所有・管理しており、今回のワークショップの対象施設ではありません。地域の集会施設として、地域の会合や高齢者の居場所づくりに活用されているようです。(※新型コロナウイルス感染症の影響で活動を休止している場合があります。)

A

通学の安全を確保し、
学校規模の適正化を図るプラン

【重点を置いた解決策】③⑩

- 蒲郡西部小学校は国道 247 号を境に分離し、蒲郡北部小学校・中央小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、蒲郡西部小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は適正規模に改築します。
- 西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○西部小学校の規模適正化に寄与する ×推奨案とは異なり、北部小敷地に小学校が整備される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

特徴/課題

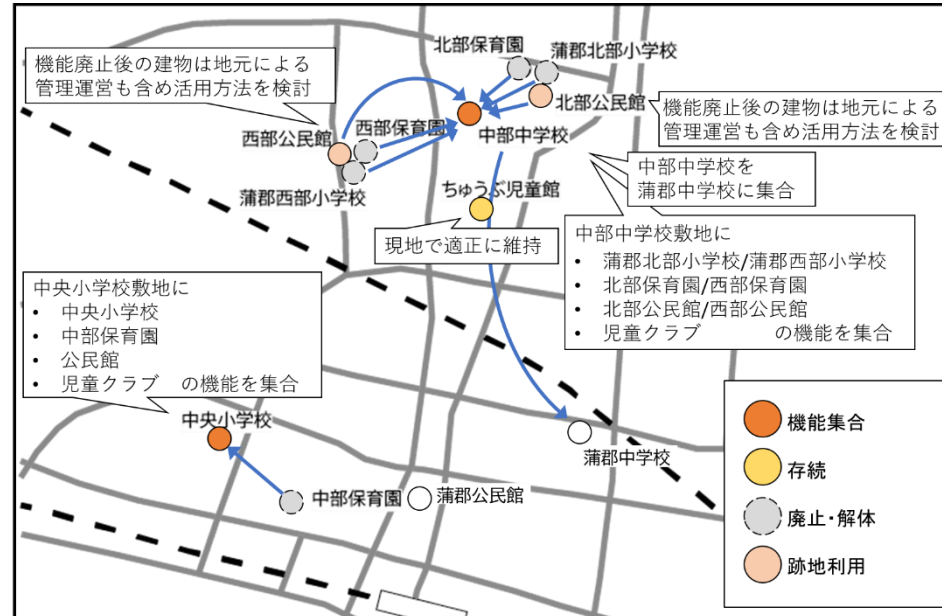
- 交通量の多い国道 247 号を渡ることなく、子ども達が通学できる
- 西部地域の施設が他地区に移ってしまうため、アクセス面での利便性が低下する

B

北部地区と西部地区の
新たな交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①⑤

- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- 中部中学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集め、中央小学校区の拠点を整備します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小が集合し、中部中敷地に整備される ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

特徴/課題

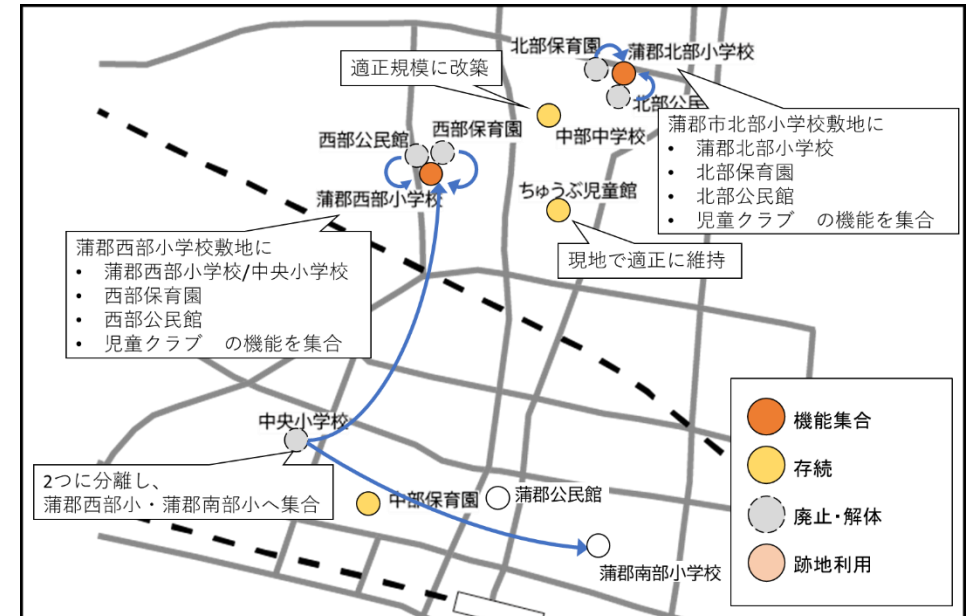
- 西部地区/北部地区の中心である中部中学校敷地に機能が集合し、両地区合同の新たな拠点が整備される
- 中央小学校の敷地に小学校・保育園・児童クラブに加え、公民館機能を集合させることで、中央小学校区の拠点が整備される

C

地域の交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①②

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、中央小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校、中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適切に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

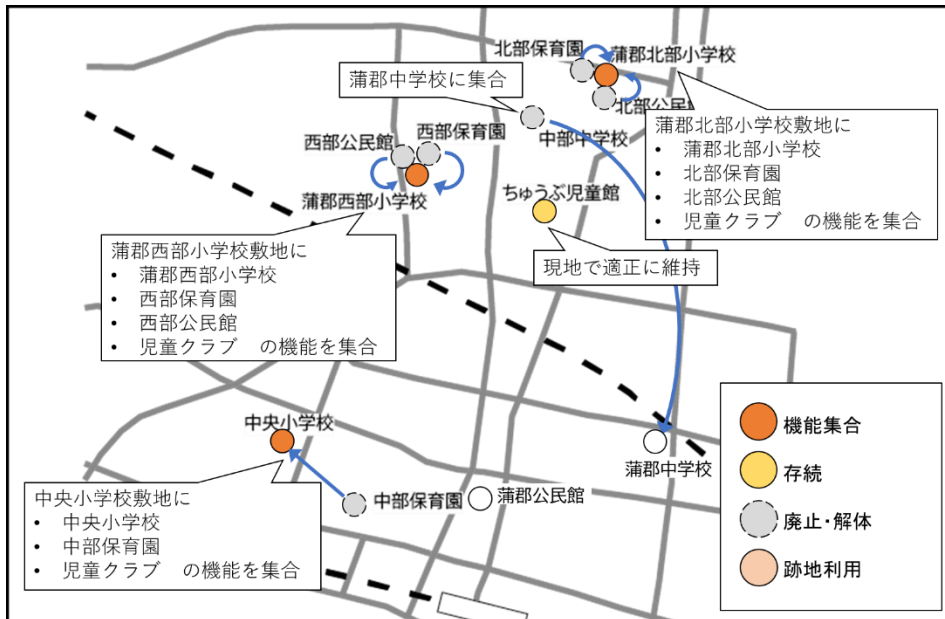
- 小学校・保育園・公民館が集合することで地域の交流拠点を整備することができる
- 中央小学校の集合により、公民館と小学校の活動範囲が同じになり、地域と子ども達の活動の連携を図りやすくなる

D

地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】②⑤

- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

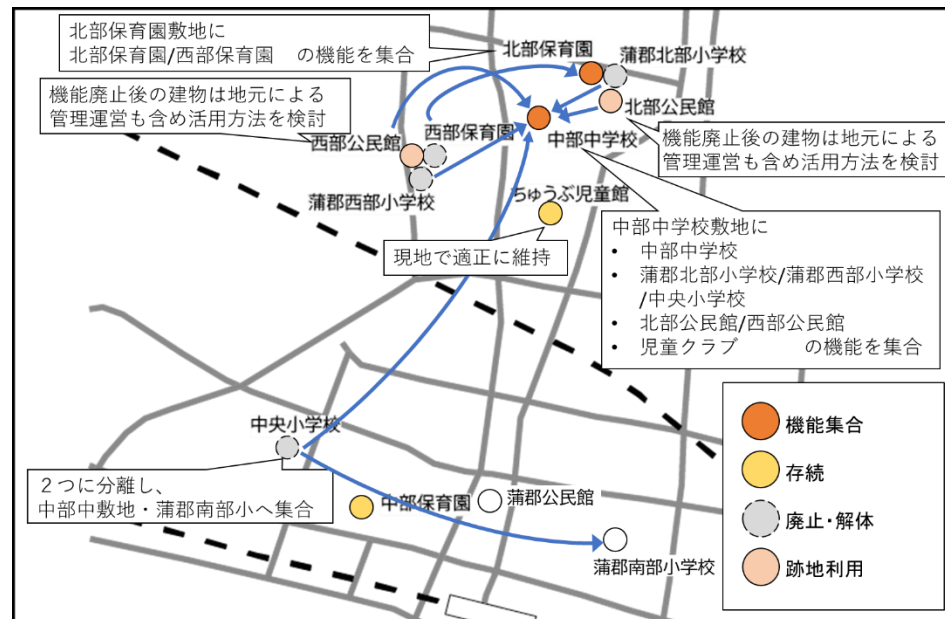
- 既存の小校区単位での整備がされるため、地区と小学校の繋がりが維持される
- 小学校を全て維持するため、将来の費用負担が大きい

E

充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡北部小学校/蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 中部中学校敷地に中部中学校、蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、中央小学校、北部公民館、西部公民館、児童クラブ機能を集めます。
- 北部保育園敷地に北部保育園、西部保育園の機能を集めます。
- 中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小/中部中が集合し、中部中敷地に整備される ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

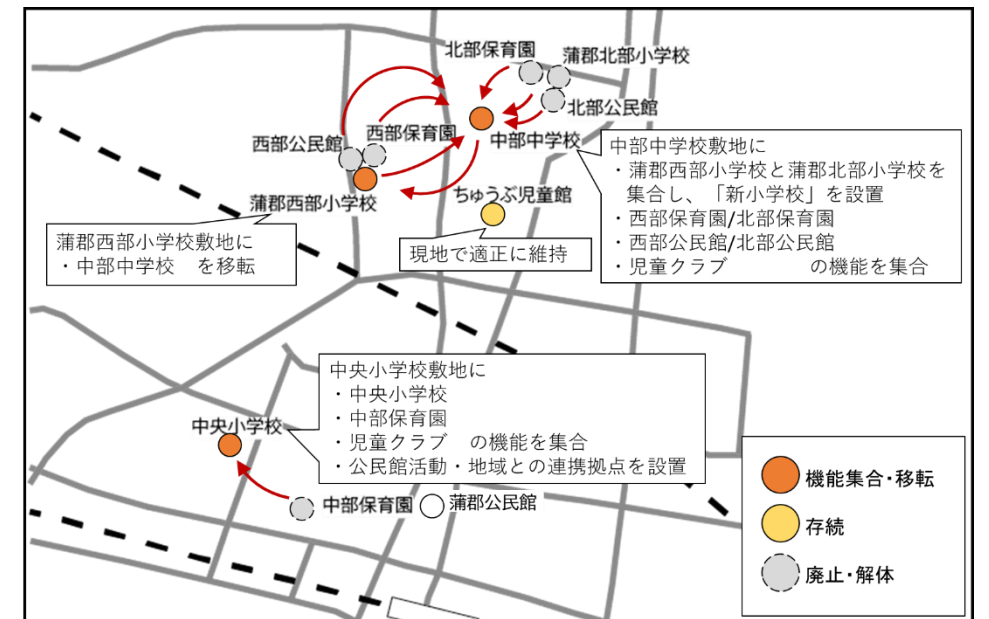
特徴/課題

- 中部中敷地にて小学校と中学校が集合することで、充実した教育の拠点が整備される
- 小学校と保育園が離れるため、子ども達のお迎えに手間がかかる

F

小中学校規模適正化方針 A プランとグランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校を合わせた「新しい小学校」を設置します。
- さらに中部中学校敷地に西部保育園、北部保育園、西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡西部小学校敷地に移転し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを行います。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。

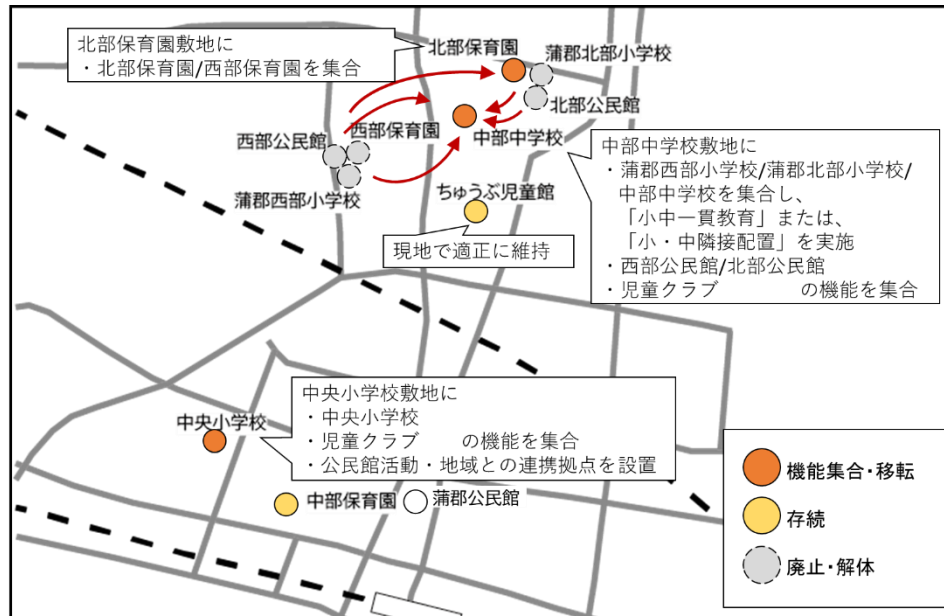


プラン作成の考え方

学校	●西部小学校と北部小学校を集合し、中部中学校敷地に「新しい小学校」を設置 ●中部中学校を西部小敷地へ移転し、「地域に根ざした学校」づくりを推進
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ●蒲郡北地区は1館が相当 ●可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ●「新しい小学校」と西部公民館/北部公民館を集合 ●中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	●地区内の保育園を3園から2園に集約 ●配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、前者でプランを作成

小中学校規模適正化方針 B プランと ランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校・中部中学校を集合し、「小中一貫教育の導入」もしくは「小中学校の隣接配置」を実施します。
- さらに中部中学校敷地に西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 北部保育園敷地に西部保育園、北部保育園の機能を集めます。



プラン作成の考え方

学校	● 中部中学校の敷地に西部小学校/北部小学校を集合させ、中部中学校との「小中一貫教育の導入」「小中学校を隣接配置」
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ● 蒲郡北地区は1館が相当 ● 可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ● 西部小学校/北部小学校と西部公民館/北部公民館を集合 ● 中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	● 地区内の保育園を3園から2園に集約 ● 配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、後者でプランを作成 ● 3保育園のうち市有地に立地する北部保育園、中部保育園敷地にて再編をするものとして作成

(参考) 小中学校規模適正化方針/ランドデザインの考え方について

〈小中学校規模適正化方針〉

【標準規模・標準配置】

	標準規模	標準配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12~18 学級	概ね 4 km	1 時間以内
中学校	9~18 学級	概ね 6 km	1 時間以内

→市の標準規模を下回る規模の学校は適正化に向けた検討を行う

【地区内の適正化検討対象校とその対応策】

○蒲郡西部小学校

〔現状〕 普通学級数：6学級 児童数：61人

〔推計(2040)〕 普通学級数：6学級 児童数：62人

→方針：近隣の学校も含めた「新しい学校教育体制の構築」

西部小学校は蒲郡市の小学校の中で最も小規模校であり、現状でも10人未満の学年もあるため、教育活動や行事等での制約が大きく、多様性の向上を育む教育を行うことが容易でないなどの教育上の課題も多いため、以下の手法で適正な規模に是正していきます。

〈Aプラン〉

- 現中部中敷地に西部小・北部小を合わせた「新しい小学校」を設置し、標準規模の小学校での教育活動を実施
- 中部中を現西部小敷地へ移設し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを推進

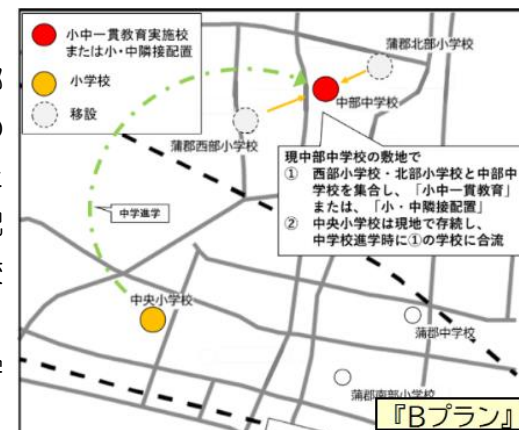
【課題】 現西部小敷地の面積が狭いため、敷地の拡大が必要。



〈Bプラン〉

- 現中部中敷地に西部小・北部小を集合させ、中部中との「小中一貫教育の導入」または「小学校・中学校を隣接配置」することで、小・中学校の連携協力体制を構築
- 中央小は現地で存続し、中学校進学時から合流

【課題】 小中一貫教育導入の場合、中央小児童は中学進学時から合流するため、本来9年間を見通した系統的な教育による様々な効果が得られない可能性がある。



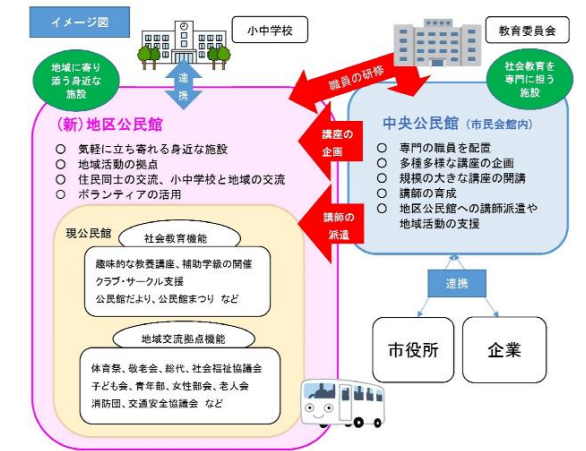
〈公民館ランドデザイン〉

【目指すべき公民館の姿】

公民館の機能を2つに分け、それぞれの機能を十分に発揮させます。

- ① 社会教育機能(学習機能)を果たす「中央公民館」
- ② 地域交流拠点機能(地域と人のつながり)を果たす「地区公民館」

※ 地区公民館建替えの際は可能な限り小学校との複合化を検討する。



【各地区の公民館の配置に関する考え方】

蒲郡北地区(北部・西部公民館)

人口規模が小さく、中部中学校を中心に施設が比較的近い距離に配置されて一定の範囲にまとまっているため、地区内に1館が相当。

ただし、中央小学区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区で検討します。

蒲郡南地区(蒲郡・小江・府相・東部公民館)

地区内に3館が相当。ただし、公民館が小学校と複合化しない場合は、校内に公民館活動や地域連携ができる場所の設置を検討します。

〈保育園ランドデザイン〉

【基本的な考え方】

- 各地区、各保育園で統一した保育サービス(低年齢児保育・延長保育)を実施できるよう適正配置について検討します。
- 基準とする規模は、一人一人のきめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長・育ちの観点から集団保育を保證できる保育園の規模(概ね80~130人程度)とします。

【中部中学校区における考え方】

○ 将来ニーズの予想

	0-5歳児計
2040年時点中学校区内保育園等入所数予想(①+②)	265
2040年時点中学校区内居住児童の入所ニーズ予想①	310
2040年時点他中学校区の民間園への入所予想②	▲45

○ 今後のあり方

● 現在の公立保育園を3園から2園に集約します。2040年時点の中学校区内保育園等入所数予想は265人であり、2園に集約する場合1園あたり132人となり、概ね基準とする規模となります。

評価に関する修正意見についての対応及び考え方

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
1	全般	学区の捉え方など、年齢、地区によって評価が異なる部分があると思う。	<p>○このワークショップは中学校区単位で実施しているため、地区全体を考慮した評価をしています。</p> <p>○ただし、項目によっては小学校区の視点から評価した上で、地区として総合的に判断したものもあります。 （例：エ 各地区の公民館配置を評価し、総合的な中学校区単位での評価としています。）</p> <p>○また、事務局で気づかない地域ごとの状況や、施設利用者からの視点についてのご意見をいただくために、住んでいる地域・年齢を幅広く募集し、今回のワークショップを開催しています。お気づきの点がありましたら、ご意見ください。</p>
2	全般	学校教育環境のあり方等、客観評価は市からの原案があってしかるべきだが、地域での活動・交流のしやすさ、子育て環境、高齢者の居場所づくり等は、地域で評価原案を募るやり方がよかったのではないか。	<p>○全ての項目について、客観的に評価を行うため、まずは事務局が考えた指標をもとに評価案をお示しし、評価の項目や内容についてご意見を伺っています。</p> <p>○なお、これらの評価項目は過去に皆さまから頂いたご意見（令和元年度実施回含む）を参考に作成しています。</p> <p>○前回いただいた様々なご意見のうち、事務局で客観的に評価できると判断したものについて評価の修正等を行いましたのでご確認ください。</p>

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
3	全般	「現状より向上」という評価は案毎の違いが見えにくくなる。例えば〈ア〉については、全ての案において複合する部分があるので、施設配置としてはすべて◎になってしまう。	<p>○現状よりも向上するか低下するかを基準に評価を行っているため、一部でも「現状より向上」しており「現状より低下する」点がなければ、一律「◎」で表現しています。</p> <p>○いただいたご意見を踏まえ、複合化の有無により評価を行っている項目については、設置される全ての施設で向上しているものを「◎」、それ以外のものを「◎-」に修正しました。</p>
4	全般	案ごとに丁寧にその価値を評価していくべきで、ハード面で捉えた場合の◎○△の評価には納得しても、運営面について議論が必要ではないだろうか。	<p>○今回は客観的に評価を行うため、あくまで施設再配置による効果により比較を行いました。しかしながらご意見いただいたとおり、実際に機能するためには運営面での議論が重要となります。</p> <p>○第6回のワークショップにおいて、施設整備後に配慮すべき事項として運営面等についてもご意見いただく予定です。</p>
5	ア	機能毎、地域毎に交流のしやすさが変わると思うので、全ての案において複合するといつて、全てに◎がつくことに違和感がある。	○現在実施されている交流の内容は地区ごとに異なることかと思いますが、学校と公民館等が集合することで、地域活動で学校施設を利用しやすくなる点では全てのプランについて現状より向上していると判断し、「◎」評価を行いました。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
6	ア オ	B案と比べ、西部小敷地に中部中を配置するF案は、中学校が西部地区に配置されることで交流拠点として機能し、付加価値が高くなる。	<p>○「オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか」については、「コミュニティの基本単位は小学校だ」とのご意見に基づき、小学校の位置関係で評価を行っていましたが、規模適正化方針においても西部地区内から小学校がなくなる懸念に対し、中学校において地域に根ざした学校づくりの取り組みを行うこととしており、いただいたご意見を踏まえて、F案を「○」に修正します。</p> <p>○なお、項目アについては、公民館等と学校が集合するかで評価を行っており、中部中学校は西部地区に移転するものの、現状と同じく中学校単体で整備されるため、評価の修正は行っていません。</p>
7	カ	「適正(適切)」を児童数だけで評価して良いだろうか。小規模もしくは大規模のどちらが適正であるか等は、児童の性格などにより異なるため、何が適正かは判断が難しい。	<p>○適切な学校規模を評価するための指標として規模適正化方針における標準規模を使用しました。また、文部科学省からも学級における児童生徒数が極端に少ない場合のデメリットとして「運動会、修学旅行などの集団活動・行事の教育効果が下がる」「クラス内で男女の偏りが生じやすい」等が示されています。</p> <p>○しかしながら、ご意見いただいたように児童の特性によっては少人数での指導を行ったほうがよい場合もあります。そのような場合には、児童に合わせた適切な教育を提供できるよう個別対応を行っています。</p>
8	ク	交通安全の観点から距離だけでなく歩道や信号機の有無、道幅の狭さなどの道路状況も考慮する必要があるのではないか。	○評価項目「又 子ども達の通学の安全が確保されているか」にて評価しています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
9	サ	地域での活動のしやすさと、子どもたちの利用のしやすさは違う。	<p>○項目サでは、「市民団体の活動に子ども達が参加できるようになるとよい」とのご意見から、子ども目線にたち小学校と公民館、公民館活動・地域との連携拠点の集合において評価しています。</p> <p>○一方、大人や市民団体目線では、評価項目「エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設となっているか」にて評価を行っており、それぞれの視点に立って評価しています。</p>
10	④ 全般	地域には今回の対象施設に限らず、「居場所」がある。対象施設に限って、「高齢者の居場所」を判断することに違和感がある。例えば、高齢者に限らず、子どもや中年層も公園やスーパー、神社などで、各々居場所をつくっている。	<p>○今回のワークショップは4種の地区利用型施設の再配置を検討しており、各案の差を分かりやすくするため、地区利用型施設の配置をもとに評価を行いました。</p> <p>○ご指摘のとおり、地域の中には公共施設に限らない居場所が多数存在していることと思います。再配置後の公共施設についてもそういった居場所の一つとなれるような施設づくりを行ってまいります。</p>
11	チ	生活者の目線からすると、単純な距離だけでなく愛着もあるので評価方法として疑問に感じる。	<p>○客観的に評価を行うため公民館からの距離を評価案としてお示しました。</p> <p>○ご意見いただいたとおり、「高齢者の居場所づくり」の視点では施設に対する愛着も大切な要素かと思えます。しかしながら、施設への愛着については人により感じ方が異なり、客観的な評価が行えないため、評価指標としては利用することができないと判断しました</p>

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
12	チ	「高齢者が歩いて通える配置」で評価がされているが、友人や仲間がいるからと中央小地区の方が小江公民館を利用するなど、距離だけで利便性は測れないと思う。	○客観的に評価を行うため、公民館との距離を用いて評価を行いました。 ○なお、過去のワークショップでも中央小学区の方は主に蒲郡公民館を利用しているとのことをご意見をいただいております。今回の評価については、広く一般的な利用を想定し、蒲郡公民館にて評価しました。
13	チ	A、B案は西部地区からみると、公民館等の高齢者が利用する施設へのアクセスが悪くなる。	○このワークショップは中学校区単位で開催しており、地区全体を考慮し評価を行っています。 ○図表6で、新しい公民館配置における0.5km,1.0km圏内の周辺高齢人口を示しています。ご指摘のとおり、西部地区から公民館が移ってしまいましたが、中部中学校区全体でみると、0.5km圏内の周辺人口において著しく増加するため「◎」と評価しました。
14	テ	評価がどの案も同じ○になっていて差がない。それでよいのか。	○「中高年の憩いの場があると地域活動がしやすくなる」「公共施設を元気な高齢者の居場所にできるとよい」といったご意見を元にした評価項目ですが、これらは施設の再配置だけではなく、施設の作り方や施設整備後の運営による要素が大きいいため、全て現状と同じ「○」評価としています。
15	ナ	C案など中央小が他校に統廃合される場合に、中央小地域の避難所が確保されているかが不安だ。評価は○となっているが心配はないのか。	○項目ナでは避難しやすさの観点から避難所周辺人口をもとに評価を行いました。災害時に避難生活を行う避難所は学校のほか保育園や体育センター武道場が指定されており、C案における距離の点では施設再編後もほとんど遜色ありません。 ○地区内の収容人数確保という観点から「ノ 避難所の収容人員は確保されているか」を追加しました。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
16	二	A、B案は西部地区からみると、施設が近くになく災害時の機能面でもよくないので△評価が妥当だと思う。	○このワークショップは中学校区単位で開催しており、地区全体を考慮し評価を行っています。 ○なお、災害時の避難しやすさという視点では項目ナで評価を行っています。
17	又	「国道247号線を通らないことで安全」とされているが、247号線は歩道が整備され、信号もあるのでむしろ安全ではないか。整備されていない路地などが心配であり、その点でA案などは北部小に向かう歩道が狭いため、一長一短の○だと思う。	○いただいたご意見を踏まえ、項目又より国道247号線横断の有無による判定を削除しました。 ○なお、A案については北部小付近の狭い歩道を通る児童が増える一方で、周辺道路が23号線バイパスの抜け道として利用されている西部小学校敷地から学校が移転するため一長一短として「○」評価としました。
18	又	A案は西部小が他校に分割され通学距離が長くなれば交通危険性が増すはずなのに、評価が◎なのは疑問がある。	○通学の利便性（評価項目：ク）と通学時の安全性（評価項目：又）は、2つに分けて評価を行っています。
19	又	C案では、中央小が分割されて国道247号線を横断する通学はなくなるが、中央小から蒲南小に通う場合にも交通量の多い危険な道路の横断がある。	○いただいたご意見を踏まえ、中央小児童が南部小へ通学することになる場合、交通量の多い道を横断するという要素を追加しました。 ○C案では現時点でも、他の要素で現状より低下する「△」評価とされています。また、同様に中央小の生徒が蒲南小に通うことになるE案では、北部小・西部小が中部中敷地に移転することで現小学校周辺道路からの危険性が低下するメリットもあるため、一長一短として「○」評価としました。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
20	又	B、G案は「北部小、西部小が中部中学に移転することで両校の周辺道路からの危険性が低下するので◎」となっているが、通学路が長くなる児童もおり、歩道が整備されていない箇所もあることから1か所に集まることで安全であるという評価は正しくないのではないか。	○B、G案の評価は、北部小及び西部小の周辺道路が狭く危険であるというご意見を元に、2校が中部中学校に移転することで危険性を回避できると判断し「◎」評価としています。
21	又	「信号機の有無、歩道の有無、道幅の広さ」などで安全性を評価する方がよい。	○前回のワークショップにおいても、「北部小周辺の道路が狭く危険である」というご意見をいただいております、ご指摘いただいた内容を踏まえて評価を行っています。

再配置プラン案の評価検証（修正版）

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地域での活動・交流のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代間の交流が活性化される施設配置となっているか。 ● 若い世代や外国人も集まれる場所は整備されているか。 ● 地域での活動が行いやすい施設配置となっているか。 	ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか。（公民館等と学校の位置関係で評価） イ 地区役員などの住民負担は軽減されるか。（構成員の大きさで評価） ウ 多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。（施設の位置関係で評価） エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。（公民館等の位置関係で評価） オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか。（小学校の位置関係で評価）
② 学校教育環境のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学校周辺の環境は適切か。 ● 地域性に合った学校の配置になっているか。 	カ 適切な学校規模が維持されているか。（小学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価） キ 適切な学校規模が維持されているか。（中学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価） ク 通学の利便性は確保されるか。（小学校）（小学校の周辺年少人口で評価） ケ 通学の利便性は確保されるか。（中学校）（中学校の周辺年少人口で評価） コ 子ども達に手厚い支援が行えるような施設配置となっているか。 サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。（小学校と公民館等の位置関係で評価） シ 小中連携した教育が期待できる施設配置となっているか。（小中学校の位置関係で評価）
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい施設配置となっているか。 ● 児童クラブは適切な場所で実施できているか。 	ス 子育て関連施設は近接して配置されているか。（保育園と小学校の位置関係で評価） セ 児童クラブを利用する子ども達が安全に移動できる施設配置となっているか。（児童クラブと小学校の位置関係で評価） ソ 児童館は安心して子どもを遊ばせられる場所となっているか。 タ 地区内の保育園で低年齢児保育は実施されているか。
④ 高齢者の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の居場所は整備されているか。 ● 高齢者が他世代と関わりを持ちやすい施設配置となっているか。 	チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。（公民館等の周辺高齢者人口で評価） ツ 高齢者が地域の子どものために活躍できる施設配置となっているか。（公民館等と小学校・保育園の位置関係で評価） テ 中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全に配慮した施設配置となっているか。 ● 災害に強い施設配置となっているか。 ● 避難所としての施設配置は適切か。 	ト 災害時に子ども達がまとまっており、安心できる施設配置となっているか（小学校・中学校・保育園の位置関係で評価） ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか。（避難所の周辺人口で評価） ニ 津波や河川の氾濫等が考慮された施設配置となっているか。 ニュ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（交通安全） ネ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（防犯） ノ 避難所の収容人員は確保されているか
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 近接した場所で多様な活動が行えるような施設配置となっているか。 ● アクセスしやすい施設配置となっているか。 	ノハ 自動車アクセスしやすい施設配置となっているか。（駐車場の確保可能性で評価） ノヒ だれもが利用しやすい施設が整備されているか。 ノフ 各地域から利用しやすい施設配置となっているか。（地域間の公民館等の配置バランスで評価） ノヘ 多様な活動ができる施設は整備されているか。（施設の位置関係で評価）
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 ・土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 ・面積が小さいなど、建物の維持管理費（光熱費・保守点検費等）が安価な場合は総コストが低くなる。

2 皆さまから頂いたご意見に基づく評価

視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎・◎-：現状より向上：○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下の3段階で評価します。

● 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.27～30のとおり。）

視点	評価項目	A案	B案	C案	D案	E案	F案	G案
① 地域での活動・交流のしやすさ	ア 学校施設を地域活動で利用しやすい施設配置となっているか。（公民館等と学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	イ 地区役員などの住民負担は軽減されるか。（構成員の大きさで評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	ウ 多世代・外国人など多様な人が集まり、交流できる施設配置となっているか。（施設の位置関係で評価）	◎	◎	◎-	◎	◎-	◎	◎-
	エ 歴史文化の継承やお祭りなどの地域活動が行いやすい施設配置となっているか。（公民館等の位置関係で評価）	○	○	◎	○	○	○	○
	オ 伝統的な地域のつながりを保つことのできる施設配置となっているか。（小学校の位置関係で評価）	△	△	△	○	△	○△	△
② 学校教育環境のあり方	カ 適切な学校規模が維持されているか。（小学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価）	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
	キ 適切な学校規模が維持されているか。（中学校）（20年後の学校規模を規模適正化方針にあてはめて評価）	○	△	△	△	△	○	○
	ク 通学の利便性は確保されるか。（小学校）（小学校の周辺年少人口で評価）	○	○	△	○	△	○	○
	ケ 通学の利便性は確保されるか。（中学校）（中学校の周辺年少人口で評価）	○	△	◎	△	◎	△	○
	コ 子ども達に手厚い支援が行えるような施設配置となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	サ 子ども達が市民団体の活動に参加できるような施設配置となっているか。（小学校と公民館等の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎-	◎	◎	◎
	シ 小中連携した教育が期待できる施設配置となっているか。（小中学校の位置関係で評価）	○	○	○	○	◎	○	◎
③ 子育てしやすい環境づくり	ス 子育て関連施設は近接して配置されているか。（保育園と小学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎-	◎	△	◎	△
	セ 児童クラブを利用する子ども達が安全に移動できる施設配置となっているか。（児童クラブと小学校の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ソ 児童館は安心して子どもを遊ばせられる場所となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	タ 地区内の保育園で低年齢児保育は実施されているか。	○	○	○	○	○	○	○
④ 高齢者の居場所づくり	チ 高齢者が歩いて通える施設配置となっているか。（公民館等の周辺高齢者人口で評価）	◎	◎	○	○	△	◎	◎
	ツ 高齢者が地域の子どものために活躍できる施設配置となっているか。（公民館等と小学校・保育園の位置関係で評価）	◎	◎	◎	◎-	○	◎	○
	テ 中高年・高齢者が日常的に交流できる居場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 安全・安心	ト 災害時に子ども達がまとまっており、安心できる施設配置となっているか（小学校・中学校・保育園の位置関係で評価）	◎	○	◎-	○	○	◎	○
	ナ 災害時に避難しやすい施設配置となっているか。（避難所の周辺人口で評価）	△	△	○	△	△	△	○
	ニ 津波や河川の氾濫等が考慮された施設配置となっているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ヌ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（交通安全）	○◎	◎	△	○	○	○	◎
	ネ 子ども達の通学の安全が確保されているか。（防犯）	○	○	○	○	○	○	○
	ノ 避難所の収容人員は確保されているか	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 利便性の確保	ハ 自動車アクセスしやすい施設配置となっているか。（駐車場の確保可能性で評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	○
	ヒ だれもが利用しやすい施設が整備されているか。	○	○	○	○	○	○	○
	フ 各地域から利用しやすい施設配置となっているか。（地域間の公民館等の配置バランスで評価）	○	○	○	○	○	○	○
	ヘ 多様な活動ができる施設は整備されているか。（施設の位置関係で評価）	◎	◎	◎-	◎	◎-	◎	◎-
⑦ 将来負担の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）	8,394	13,038	9,055	5,494	11,871	7,253	8,245
	◎の個数	12 13	12	6 10	7 9	6 8	12	8 10
	◎-の個数	0	0	4	2	2	0	2
	○の個数	15 13	13 12	15 14	17 16	15 14	15 13	17 16
	△の個数	2	4	4	3	6	2 3	2

<参考> I 視点①～⑥についての評価(75点満点)	50.43 52.23	47.84 48.21	42.67 45.54	43.97 45.54	38.79 40.18	50.43 49.55	46.55 48.21
<参考> II 視点⑦についての評価 (25点満点)	16.10	25.00	17.36	10.53	22.76	13.91	15.81
<参考>合計 (I + II) (100点満点)	66.53 68.33	72.84 73.21	60.03 62.90	54.50 56.07	61.55 62.94	64.34 63.46	62.36 64.02

3 グランドデザインの考え方に基づく各案の評価

- 評価項目ごとに ◎：各方針の考え方と整合している、○：各方針の考え方と概ね整合している、△：各方針の考え方と異なっている の3段階で評価します。

評価項目		A案	B案	C案	D案	E案	F案	G案	
小学校	1 地区内の児童が通う小学校は標準規模の範囲に収まっているか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	
	2 地区内の児童が通う小学校の通学距離・時間は基準とする範囲に収まっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	3 地区内の施設配置は方針で推奨されている適正化に向けた対応策に基づく配置となっているか。	△	◎	△	△	△	◎	◎	
中学校	1 地区内の生徒が通う中学校は標準規模の範囲に収まっているか。	◎	△	△	△	△	◎	◎	
	2 地区内の生徒が通う中学校の通学距離・時間は基準とする範囲に収まっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	3 地区内の施設配置は方針で推奨されている適正化に向けた対応策に基づく配置となっているか。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	
公民館	1 地域と人をつなぐ公民館となっているか。	△	△	○	△	○	△	△	
	2 青少年が地域との交流活動に参加しやすいか。	○	○	○	○	◎	○	◎	
	3 学校との連携がしやすい環境が整備されているか。	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	
	4 地区内に配置されている公民館数がグランドデザインに合致しているか。	△	△	△	△	◎	◎	◎	
保育園	1 集団保育を保證できる規模を維持できるか。	○	○	△	△	○	○	○	
	2 費用負担の軽減が見込まれるか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	
	3 地区内に配置される保育園数がグランドデザインに合致しているか。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	
	4 保育サービスの統一が図られているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		◎の個数	2	3	1	1	2	3	3
		○の個数	0	0	0	0	0	0	0
		△の個数	1	0	2	2	1	0	0
		◎の個数	3	1	2	1	2	3	3
		○の個数	0	0	0	0	0	0	0
		△の個数	0	2	1	2	1	0	0
		◎の個数	1	1	1	0	3	2	3
		○の個数	1	1	2	2	1	1	0
		△の個数	2	2	1	2	0	1	1
		◎の個数	3	3	1	1	3	3	3
		○の個数	1	1	0	0	1	1	1
		△の個数	0	0	3	3	0	0	0
＜参考＞各案の評価 (100点満点)		72.92	64.58	43.75	29.17	77.08	87.50	90.63	

＜参考＞点数の算出方法

- 皆さまから頂いたご意見に基づく評価
 - ・視点①～⑥については、各評価項目の ◎=2点、◎-=1.5点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
 - ・視点⑦については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
 - ・ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。
- グランドデザインの考え方に基づく各案の評価
 - ・小学校、中学校、公民館、保育園の4施設それぞれの得点を25点ずつとして、100点満点で評価しました。
 - ・各施設の評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、それぞれ25点に得点割合を乗じた値を下表にまとめました。

付帯事項について

施設の再配置を実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべき事項（運営面での工夫等）を抽出・整理しましょう。

（参考）これまでにいただいたご意見の一例

視 点	ご意見
① 地域での活動・交流のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学区と行政区に不整合があるため、整理をする必要がある。 ・ 子どもと市民団体が共に活動する場所を検討できると良い。 ・ 小学校が分かれる場合には、コミュニティが壊れないよう配慮してほしい。
② 学校教育環境のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数学校を希望する方のため、越境通学の導入などの制度の見直しが必要ではないか。 ・ 小中一貫校を導入するならば、地域連携やいじめの点から不安を感じる人もいるので選択制にできないか。 ・ 施設の複合化により、運動場が狭くなるなど子ども達に不便が生じないようにしてほしい。 ・ 中部中が一貫校となり中央小が途中合流する場合、子ども達が疎外感を受けないよう配慮してほしい。
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢によって子どもの遊び方が違う。年代ごとに分かれて遊ぶことができるスペースがあると良い。
④ 高齢者の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に交流ができるよう、ソフト面での対応などで高齢者が住みよいまちにしたい。 ・ 近所付き合いもなくおとなしい人も多いので、交流できる機会がたくさんあると良い。 ・ 地域の年配の人が子どもの通学などを見守ることで活躍の場が生まれ、高齢者と子ども達の交流につながる。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

<p>⑤ 安全・安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 災害時における高齢者や障がい者の避難のしやすさなど、バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点も盛り込むべきである。 • 歩道や信号機の設置など学校周辺の道路を整備してほしい。 • 学校が再編されると子どもの通学距離が伸びるため、スクールバスの導入など安全面を考慮してほしい。 • 学校に様々な施設が複合化すると様々な人が出入りするようになるため、防犯面の安全を確保してほしい。
<p>⑥ 利便性の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニティバスなど、公共施設へのアクセスの確保が必要だ。 • 新しく整備される施設には駐車場を確保してほしい。
<p>⑦ 将来負担の縮減</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 建替コストだけでなく運営コストも考慮すべきだ。 • 民間に有料で貸し出し、維持管理費用に回せないか。 • 再配置の結果使われなくなる施設について、市民活動や高齢者の居場所などの役割を与えられるとよい。
<p>⑧ 運営の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 施設の利用率を上げるため、情報発信や民間を巻き込んだイベントなどを実施してはどうか。 • 公民館は若い人が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、利用促進を図りたい。 • 公民館に自由に入出入りできるフリースペースがあるとよい。 • 学校と公民館の連携のため、校内に地域とつなぐコーディネーターを配置できないか。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 将来世代にとって魅力ある施設にしてほしい。

本日の検討内容

- ① これまでのワークショップでの検討内容や評価結果を踏まえると、将来の蒲郡北地区の公共施設の配置としてふさわしい案はどの案ですか。
どのようなことを重視してその案を選びましたか。

- ② 皆さまが将来の蒲郡北地区にふさわしいと考える再配置プラン案を整理しました。
各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきことはありますか。